

せたな町地域公共交通網形成計画策定業務 報告書概要版

平成30年3月

目 次

1. 計画策定にあたって	1
2. せたな町における地域公共交通の課題	3
3. 計画の基本的な方針	10
4. 計画の目標	12
5. 目標達成のための施策・事業	13
6. 計画の達成状況の評価	23

1. 計画策定にあたって

1-1. 計画策定の趣旨

- ・マイカーの普及や人口減少・少子化などにより、公共交通（バス、タクシーなど）の利用者が減少し、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下が生じてきている。
- ・一方、せたな町では高齢化の進行により公共交通機関に頼らざるを得ない町民の増加が予想され、公共交通の維持・確保の必要性が増していることから、バス路線の町内線をはじめとする赤字路線への財政的支援や一部路線のデマンド化などに取り組んできた。
- ・また、これまでの公共交通は、民間事業者を中心に路線網の整備などがなされてきたが、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正によりこの枠組みが見直され、今後は、地方公共団体が中心となってまちづくりと連携し、面的な交通ネットワークを再構築するとしている。
- ・このため、こうした法改正の趣旨を十分に踏まえ、持続可能な公共交通体系の構築を目指し、本計画を策定するものである。

1-2. 計画の位置付け

- ・本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定計画である。
- ・また、せたな町のまちづくりの指針となる第2次せたな町総合計画を上位計画とし、せたな町創生総合戦略などの関連計画を踏まえて作成している。

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律

(H19.10施行、H26.11一部改正法施行)

<改正のポイント>

- ①地方公共団体が中心となり ②まちづくりと連携し
③面的な公共交通ネットワークを再構築

第2次せたな町総合計画

(H30.3 策定、計画期間：H30年度～H39年度)

せたな町創生総合戦略

(H28.3 策定)

せたな町地域公共交通網形成計画

1. 計画策定にあたって

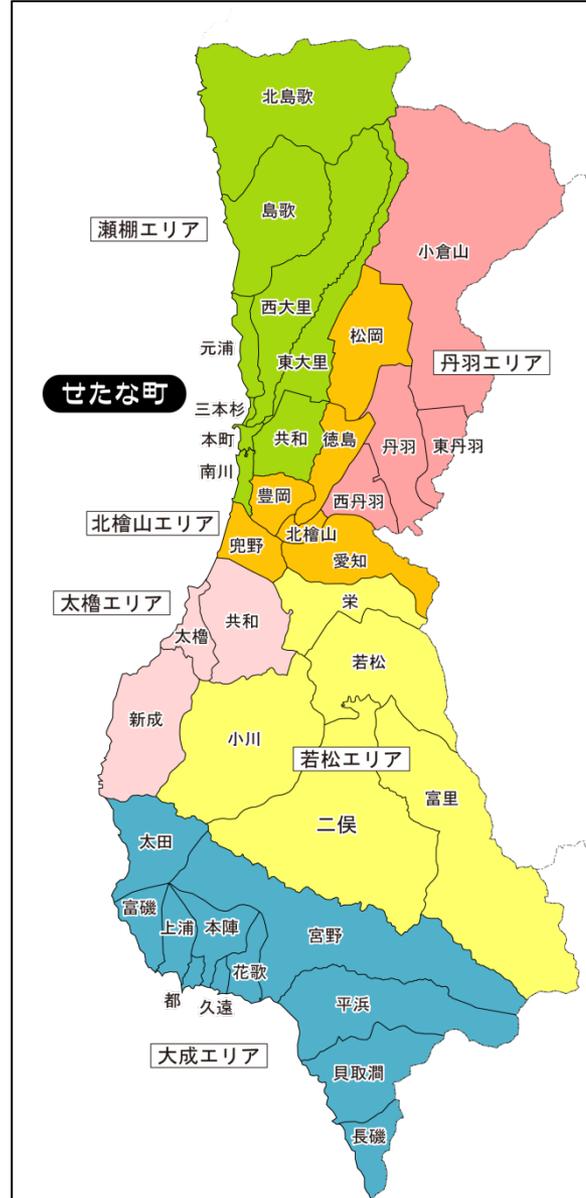
1 - 3. 計画の区域

- ・計画の区域は、せたな町全域とします。

1 - 4. 計画の期間

- ・計画期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間を想定します。

▼計画の区域



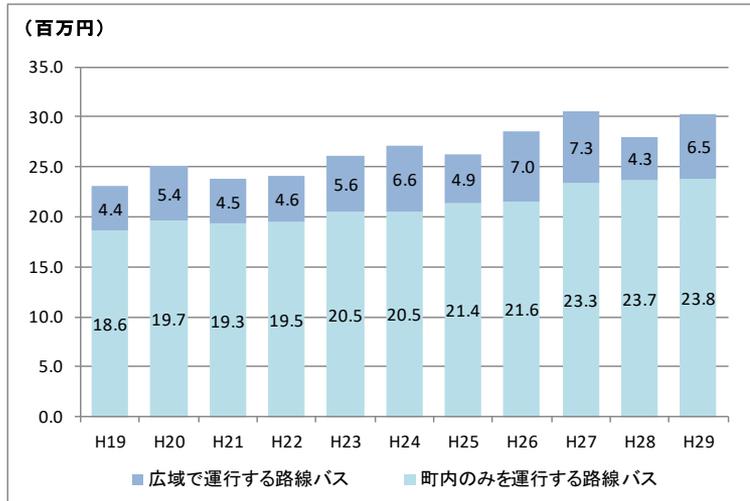
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-1 全町的な課題

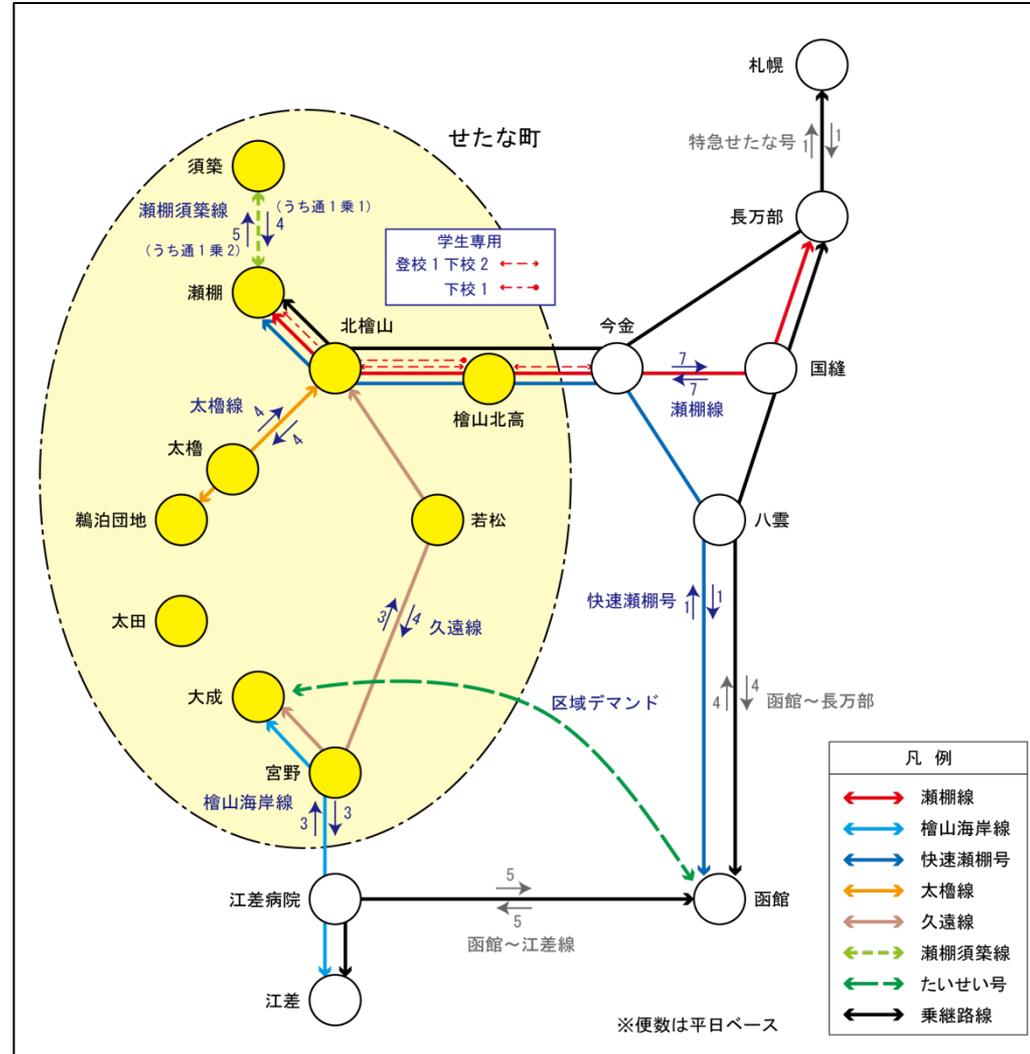
(1) 路線バス利用者数の減少

・せたな町における路線バスは、近隣市町村とネットワークしている路線（瀬棚線、檜山海岸線など）と町内のみで完結する路線（太櫓線、久遠線など）が運行していますが、いずれも利用者は減少傾向で町の財政負担も増加しているため、利便性の向上などにより、利用者数の減少に歯止めをかける対策が求められています。

▼せたな町のバス維持負担額の推移



▼せたな町バス路線運行概要図

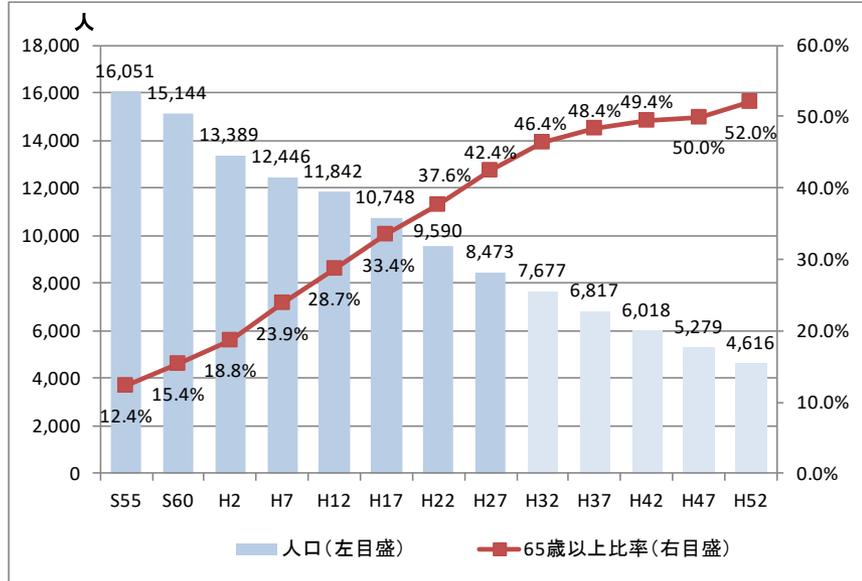


2. せたな町における地域公共交通の現況と課題

(2) 人口の減少及び高齢化への対応

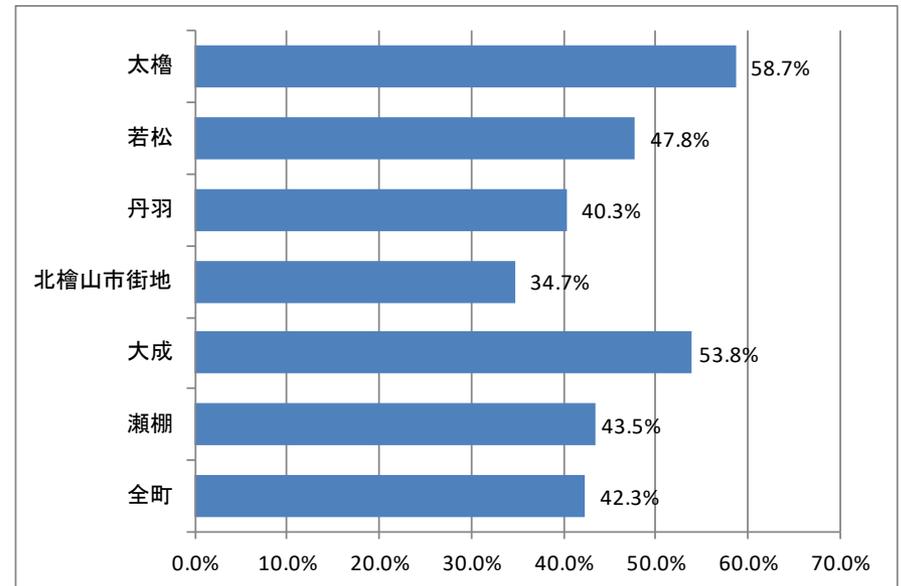
- せたな町の人口は急激な減少傾向が続いており、今後もさらに減少することが見込まれています。また、高齢化率は全道平均を上回る42.4%ですが、今後もさらなる進行が予測されています。
- また、地区別の高齢化率をみると、太櫓地区や大成地区などでは5割以上の高齢化率となっているほか、若松地区や瀬棚地区でも4割を超える高齢化率となっており、高齢化が進む地域をいかにネットワークしていくが課題となります。

▼人口及び65歳以上人口比率の推移及び将来予測



資料/国勢調査及びせたな町将来ビジョン

▼町内地区別の65歳以上人口比率



資料/住民基本台帳 (平成28年9月末)

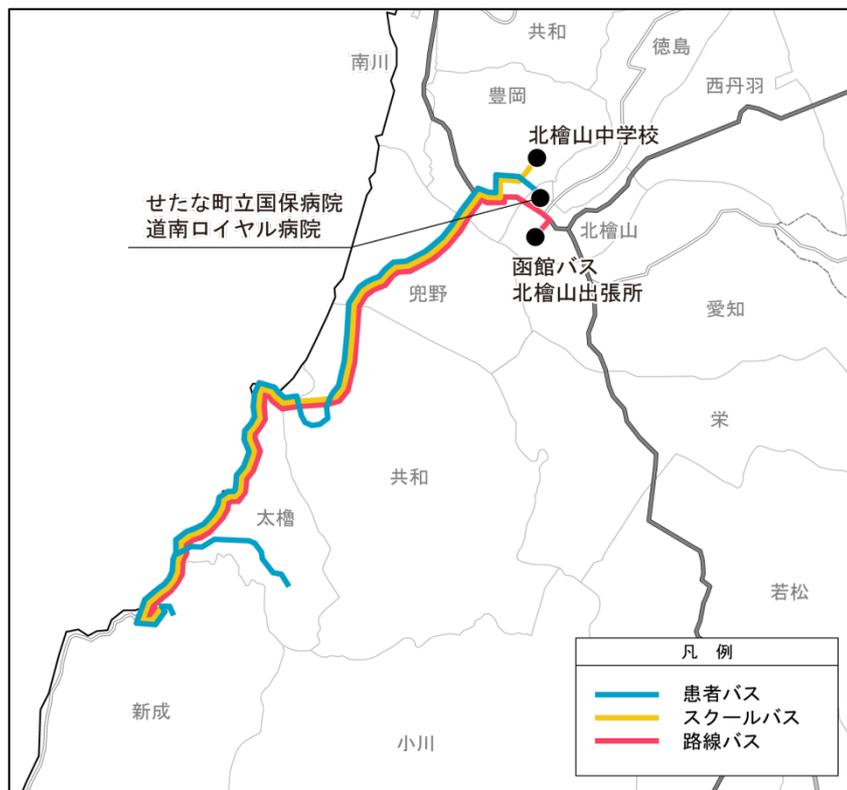
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-2 利用状況からみた課題

(1) 異なる目的で運行されているバス路線の重複

- ・ せたな町内では路線バスのほかに、スクールバスや患者バス、福祉バスなどが運行されているが、太櫓地区や大成区などでは、運行路線のほとんどが重複しており、これらの効率的な運用が課題となる。

▼太櫓方面と北檜山市街地を結ぶ路線



▼太櫓方面と北檜山市街地を結ぶ路線の運行時間

路線バス

鵜泊団地前 7:11発 → 北檜山 7:35着

スクールバス

鵜泊団地 7:25発 → 北檜山小学校 7:50着
(函館バス巡回場) 北檜山中学校 7:54着

路線バス

鵜泊団地前 9:07発 → 北檜山 9:31着

患者バス (主な区間の発着時間)

(月) 鵜泊団地母と子の家前 10:10発 → 国保病院 10:44着
(水) 鵜泊団地母と子の家前 9:25発 → 国保病院 9:59着

路線バス

鵜泊団地前 13:25発 → 北檜山 13:49着

路線バス

鵜泊団地前 17:00発 → 北檜山 17:24着

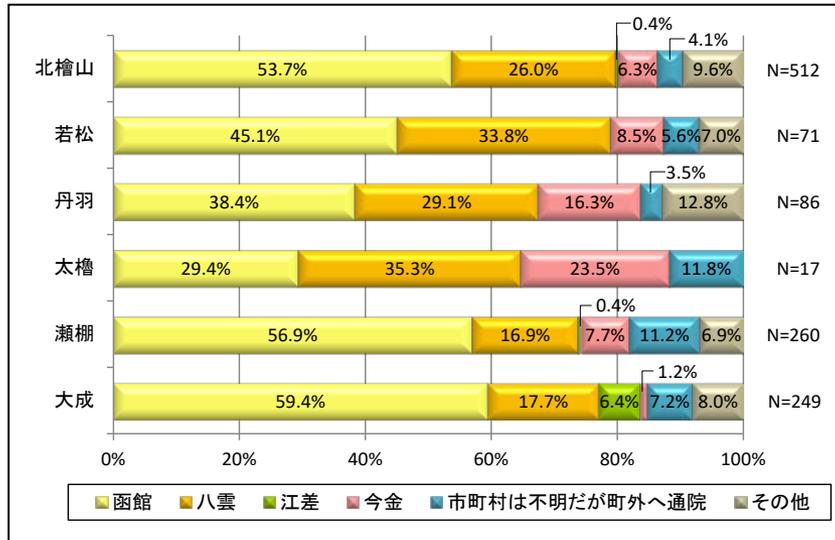
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-2 利用状況からみた課題

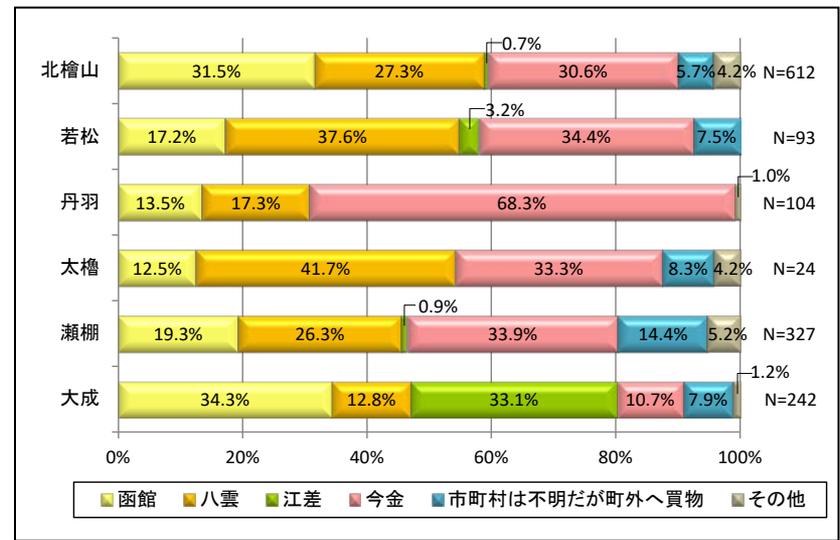
(2) 地区毎・利用目的毎に異なる広域移動ニーズ

- せたな町の広域移動ニーズとしては、通院では八雲や函館方面、買い物では八雲・函館に加え、今金や江差への移動もみられる。
- これらを地区別でみると、太櫓や若松では八雲方面の比率が多い傾向があるほか、丹羽で今金、大成で江差の比率が高くなっているなど、地区毎、利用目的毎に広域移動ニーズが細かく分かれている。

▼ 6地区エリア別町外の通院先



▼ 6地区エリア別町外の買い物先



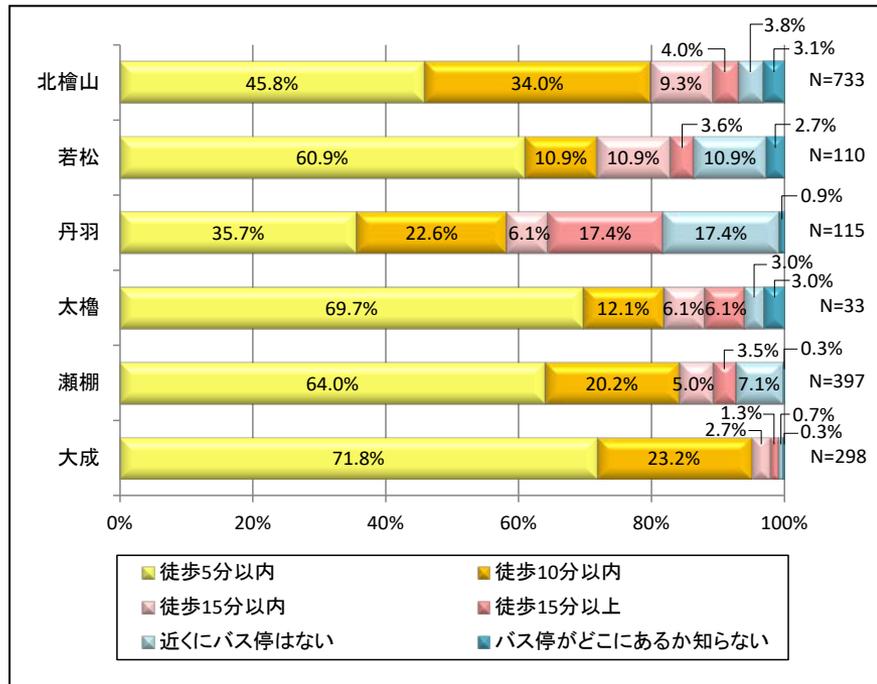
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-2 利用状況からみた課題

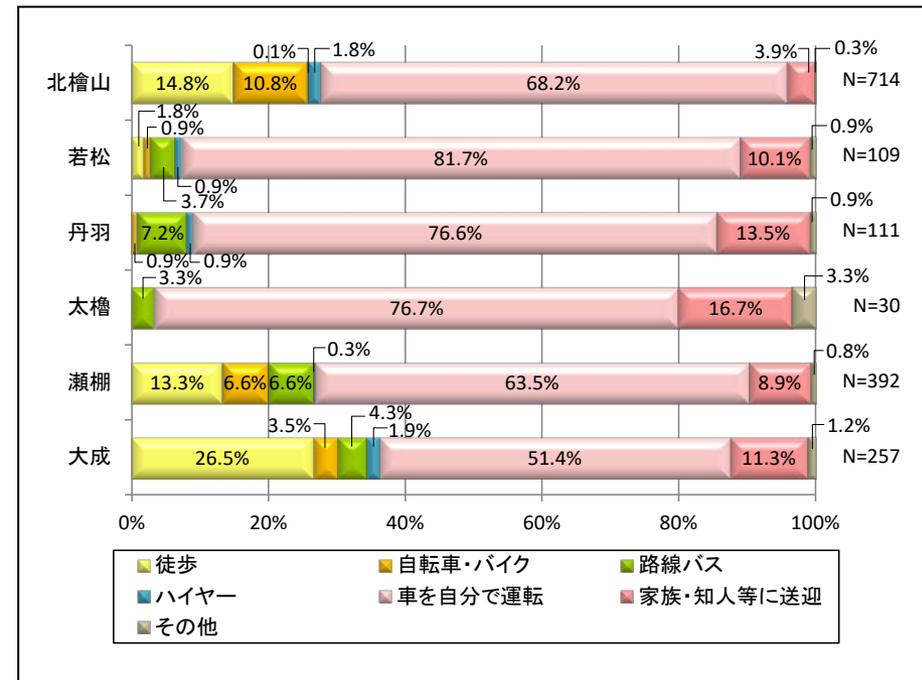
(3) 路線バス利用困難地域の存在

- ・丹羽地区や若松地区などでは徒歩圏内にバス停がないという回答も多い。
- ・特に、病院や商店、学校については、北檜山、瀬棚、大成という旧町の中心部にそれぞれ立地しているため、若松地区や丹羽地区、太櫓地区のほか、瀬棚区や大成区の中心部以外のエリアなど、地域生活の上で自動車による移動が非常に重要な役割を担っている一方で路線バスの利用が困難な住民も多い。

▼自宅からバス停までの時間（6地区別）



▼町内の買い物での交通手段（夏期・6地区別）



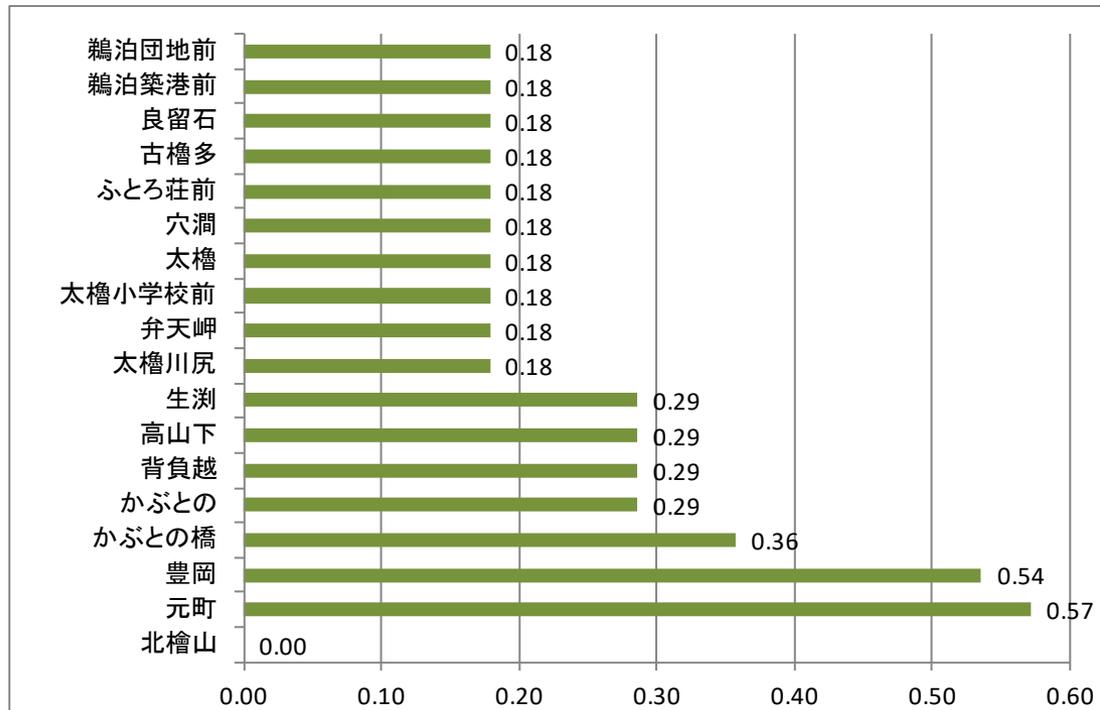
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-2 利用状況からみた課題

(4) 需要条件が厳しい路線の存在

- ・太櫓線やたいせい号など持続的に運行を継続するためには需要条件が厳しい路線が存在している。

▼ 1便あたりの乗車人員（鵜泊団地前～北檜山間）



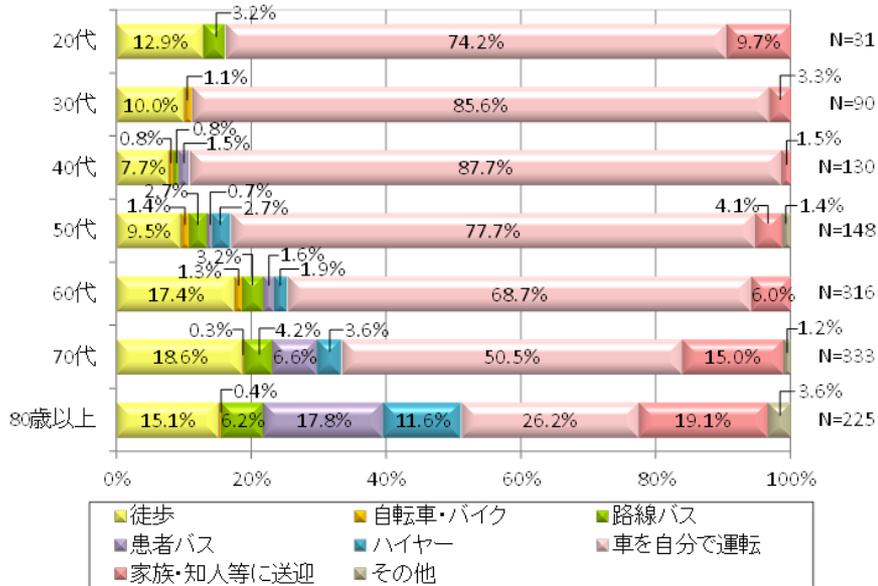
2. せたな町における地域公共交通の課題

2-2 利用状況からみた課題

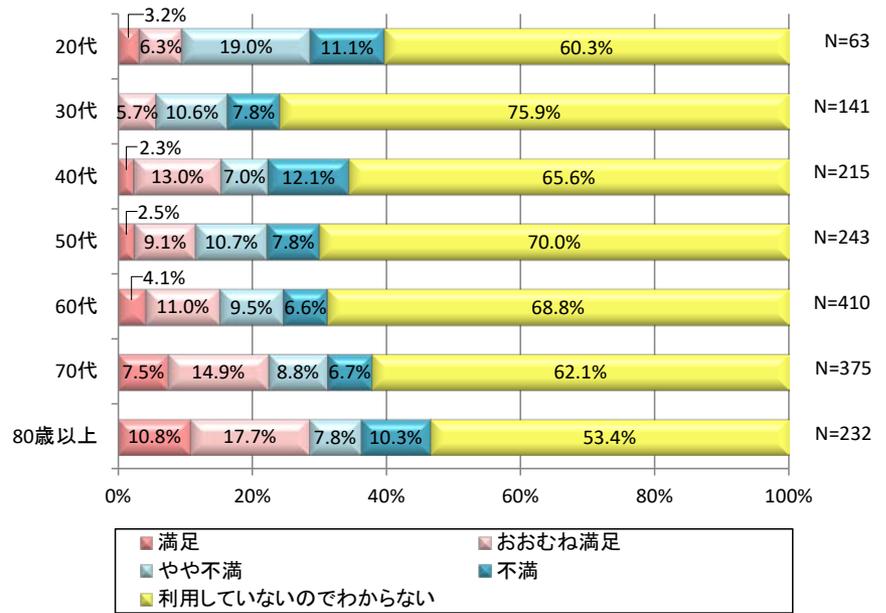
(5) 高齢者利用への対応

- アンケートでは、かなり高齢でも自家用車を使っている方も多くみられている一方、自由意見などでは将来の不安から公共交通機関の存続・必要性を訴える声が多く上げられており、高齢者の利用目的に対応した公共網通網をいかに形成するかが課題となる。

▼年齢階層別の町内での通院の移動手段



▼年齢階層別の路線バスの印象



3. 計画の基本的な方針

- ・第2次せたな町総合計画（平成30年3月策定）においては、「だれもが便利さを実感できるまち」という基本目標の中で、公共交通と港湾が位置づけられており、「現在あるバス路線やフェリー航路の維持に努めるとともに、中長期的な視野で町内の公共交通網のあり方を考え、取り組みを進めます」という基本的な考え方が整理されている。
- ・また、せたな町創生総合戦略（平成28年3月策定）においては、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という基本目標の中の「住みよい定住環境向上への取組」という項目の中で「バスなど公共交通機関の維持など交通、定住を支える生活基盤づくりを推進」と位置づけられている。
- ・これらのまちづくりの計画との一体性を確保しながら、アンケート調査等によって得られた地域の課題を踏まえ、人口の減少や住民の高齢化など変化する地域の生活交通ニーズに的確に対応しながら、複数の運行手段を統合した効率的かつ持続的な公共交通網の形成を基本的な方針として、各種の施策を推進する。
- ・なお、地域の公共交通を持続的に運行していくためには効率的な運行の視点が重要である一方、様々な主体との合意や連携が不可欠なため、町民、交通事業者、広域の関係自治体など、関係者と十分協議を行いながら進めます。
- ・以上のことから、本計画の基本方針を次のとおり定めます。

■基本方針

誰もが便利さを実感できる公共交通ネットワークの構築

3. 計画の基本的な方針（方向性）

【方向性1】

町民が安心して暮らし続けられる持続可能な生活交通の確保

〈目標達成のための施策・事業〉

- バス体験乗車会の実施
- 温浴施設の利用促進と一体となった地域住民の利用促進

【方向性2】

利用実態に即した効率的な交通手段の導入

〈目標達成のための施策・事業〉

- 複数の運行目的の統合によるデマンドバスの運行検討

【方向性3】

高齢化等による移動困難者に配慮した移動支援策の検討

〈目標達成のための施策・事業〉

- 長距離通院に対応した輸送手段の確保
- 丹羽エリア・若松エリアなど農村エリアを中心としたデマンド型乗合タクシーの導入
- 瀬棚須築線の区域デマンド化

【方向性4】

生活交通と連携した町内観光スポットを周遊する路線の検討

〈目標達成のための施策・事業〉

- 宿泊施設と連携したバス・タクシーの利用促進

【方向性5】

主要路線である幹線系統の維持及び利用促進

〈目標達成のための施策・事業〉

- 広域で運行する公共交通路線の維持確保に向けた協議の場づくり

4. 計画の目標

【目標1】

町民が安心して暮らし続けられる持続可能な生活交通の確保

〈数値目標〉

- 町民1人あたりの公共交通利用回数（年間のスクールバス、患者バス、路線バスの総輸送人員／人口）
（現状値）15.8回／人（平成28年度） （目標値）16.0回／人（平成34年度）

【目標2】

利用実態に即した効率的な交通手段の導入

〈数値目標〉

- 太櫓線の1便あたりの平均乗車人員
（現状値）0.6人（平成29年度） （目標値）1.0人（平成34年度）

【目標3】

高齢化等による移動困難者に配慮した移動支援策の検討

〈数値目標〉

- デマンド型交通の運行路線数
（現状値）2路線（瀬棚須築線、たいせい号） （目標値）4路線（平成34年度）

【目標4】

生活交通と連携した町内観光スポットを周遊する路線の検討

〈数値目標〉

- 公共交通の利用と一体となった宿泊サービスプランの利用者数
（現状値）なし（平成29年度） （目標値）年間100人（平成34年度）

【目標5】

主要路線である幹線系統の維持及び利用促進

〈数値目標〉

- 瀬棚線の1便あたりの平均乗車人員
（現状値）19.1人／便（平成29年度） （目標値）20.0人／便

5. 目標達成のための施策・事業

【方向性1】 町民が安心して暮らし続けられる持続可能な生活交通の確保

【 施策・事業 1-1 】 バス体験乗車会の実施

【背景】

- 町民アンケート調査では、路線バスの問題点として、「利用していないのでわからない」とする回答が過半数を占めている。

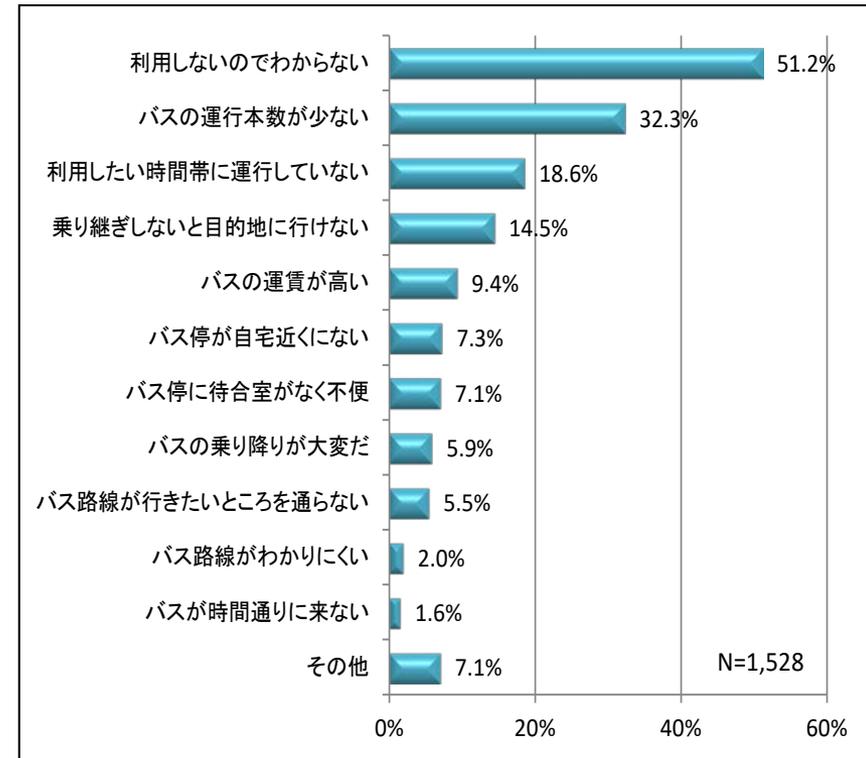
【事業内容】

- 公共交通の利用促進に向けては、利用を全くしていない町民層に対して、路線バスの便利さや移動の容易さを理解してもらうことが重要な視点になる。
- 路線バスの沿線を中心として、町内会単位などにより温浴施設などを目的地として「バス体験乗車会」を実施していく。

【実施主体】 せたな町、交通事業者

【関連する組織等】 町内会、老人会など

▼路線バスの問題点



5. 目標達成のための施策・事業

【方向性1】 町民が安心して暮らし続けられる持続可能な生活交通の確保

【 施策・事業 1-2 】 温浴施設の利用促進と一体となった地域住民の利用促進

【背景】

- ・町内には、北檜山区、瀬棚区、大成区それぞれに公営温泉が立地しており、地域住民の憩いの場となっている。
- ・温浴施設はバス停にも近接しているものの、公共交通を利用した移動は少ない現状にある。

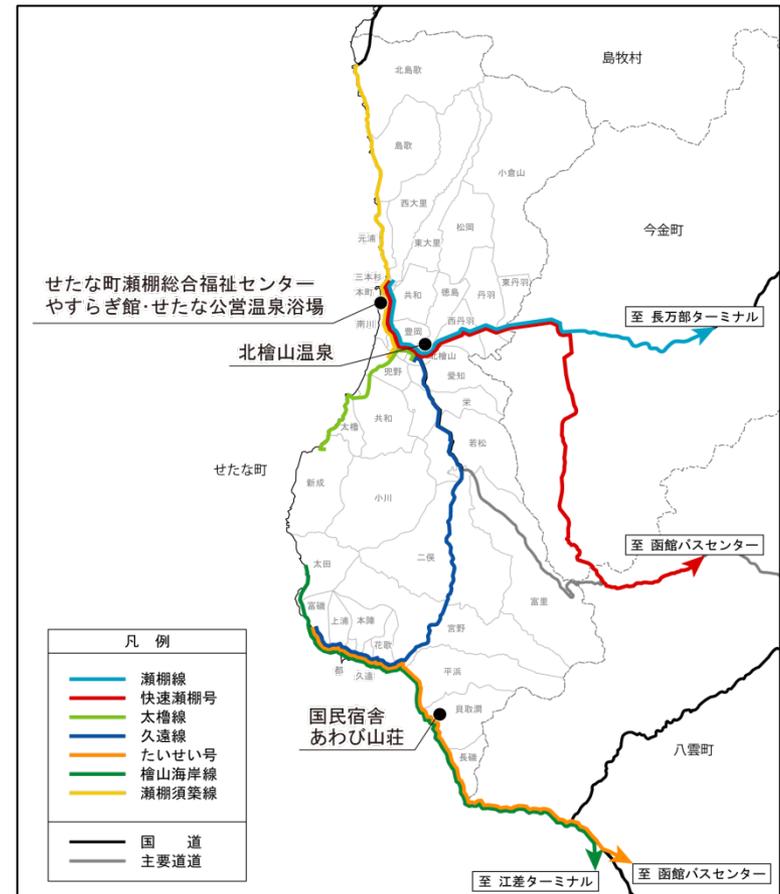
【事業内容】

- ・公共温泉の利用促進と公共交通の利用促進を一体的に図るための利用促進策を展開する。
- ・具体的には、バスの乗車券と入浴券が一体となった企画割引チケットの販売や老人会を対象とした無料招待日の設定、温浴施設に近接したバス停の設置などを進める。

【実施主体】 せたな町、交通事業者

【関連する組織等】 温浴施設の運営事業者

▼町内の公営温浴施設の立地と路線バス網



5. 目標達成のための施策・事業

【方向性2】 利用実態に即した効率的な交通手段の導入

【 施策・事業 2-1 】 複数の運行目的の統合によるデマンドバスの運行検討

【背景】

- ・ 町内のみを運行する路線バスは、3路線（太櫓線、久遠線、須築線）あり、うち須築線は路線型でのデマンド運行を実施している。
- ・ その中でも太櫓線においては、「乗車人員が極めて少ない」「運行路線がスクールバス及び患者バスとほぼ同じ」という条件にある。

【事業内容】

- ・ 町内のみを運行する路線バスについて、町民の移動ニーズや並行する移動支援サービスに応じた路線網の見直しを行う。
- ・ 具体的には、平成30年度以降、太櫓線を対象としてデマンド化の実証運行を行うほか、太櫓線同様に利用者の少なく町の負担額が多くなっている久遠線についてもデマンド化の検討を進める。

【実施主体】 せたな町、交通事業者

【関連する組織等】 国・道（補助）、道路管理者

▼太櫓方面と北檜山市街地を結ぶ路線の運行時間

路線バス

鵜泊団地前 7:11発 → 北檜山 7:35着

スクールバス

鵜泊団地 7:25発 → 北檜山小学校 7:50着
(函館バス旋回場) 北檜山中学校 7:54着

路線バス

鵜泊団地前 9:07発 → 北檜山 9:31着

患者バス（主な区間の発着時間）

(月) 鵜泊団地母と子の家前 10:10発→国保病院 10:44着
(水) 鵜泊団地母と子の家前 9:25発→国保病院 9:59着

路線バス

鵜泊団地前 13:25発 → 北檜山 13:49着

路線バス

鵜泊団地前 17:00発 → 北檜山 17:24着

5. 目標達成のための施策・事業

【方向性3】 高齢化等による移動困難者に配慮した移動支援策の検討

【施策・事業 3-1】 長距離通院に対応した輸送手段の確保

【背景】

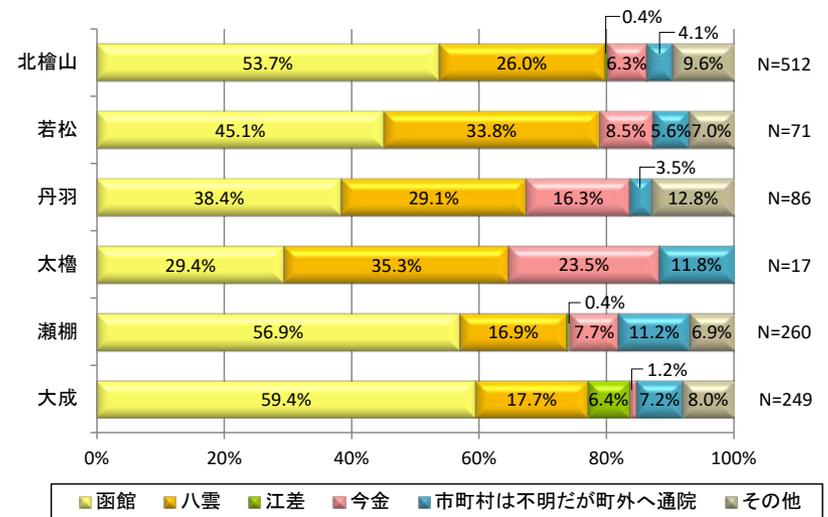
- ・せたな町では町内で対応が難しい専門的な診療科目を中心に八雲や函館への通院移動が多い。
- ・通院利用者向けの輸送手段としては、北檜山区や瀬棚区では「快速せたな号」、快速せたな号が区域内を運行していない大成区においては、函館方面に向けてデマンド型の通院乗合ハイヤーである「たいせい号」が運行している。

【事業内容】

- ・町内の各区の移動条件を踏まえ、運行を担う交通事業者が持続的に運行できるよう、長距離通院に対応した輸送手段を確保していく。
- ・快速せたな号については、今後の継続的な運行に向けた利用促進を図るほか、たいせい号については、関係各機関との協議を踏まえながら、交通事業者が持続的に運行できるための枠組みについて検討を進める。

【実施主体】 せたな町、交通事業者

▼ 6地区エリア別町外の通院先



5. 目標達成のための施策・事業

【方向性3】 高齢化等による移動困難者に配慮した移動支援策の検討

【 施策・事業 3-2 】 丹羽エリア・若松エリアなど農村エリアを中心としたデマンド型乗合タクシーの導入

【背景】

- 町内においては、丹羽地区や若松地区などにおいて「近くにバス停はない」との回答が1割以上に上っている。
- これらの地区では現在は自家用車に頼っている住民が多いが、瀬棚区の農村エリアも含め、町内の農村エリアについては今後の高齢化の進行によって移動の問題が切実になっていくことが予想される。

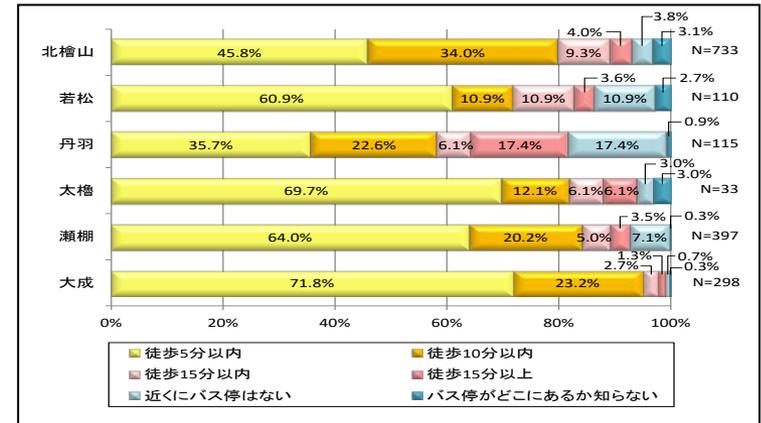
【事業内容】

- 丹羽地区や若松地区など現在、公共交通空白エリアが広がっているエリアを中心にして、これらエリアをカバーしている患者バスやスクールバスの統合も含め、買い物等多様なニーズに対応できるような移動手段について導入を進めていく。
- 地域住民との協議をはじめ、必要に応じて実証実験を実施し、持続可能で効率的な輸送サービスの実現を図る。

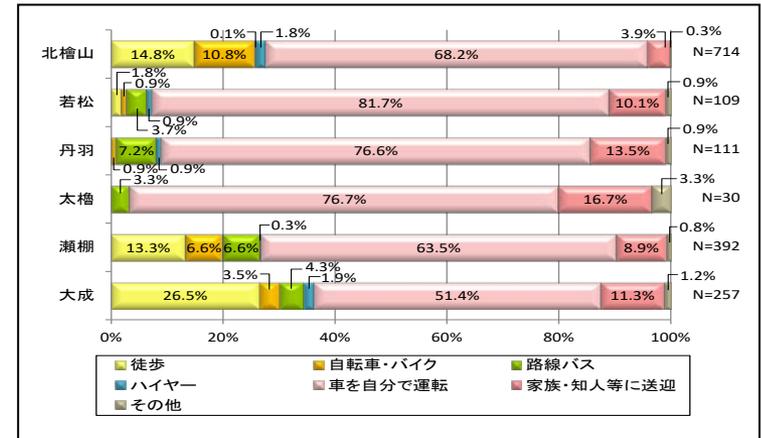
【実施主体】 せたな町、交通事業者

【関連する組織等】 国・道（補助）

▼バス停までの時間（6地区別）



▼買い物（町内）の移動手段（6地区別）



5. 目標達成のための施策・事業

【方向性3】 高齢化等による移動困難者に配慮した移動支援策の検討

【施策・事業 3-3】 瀬棚須築線の区域デマンド化

【背景】

- 瀬棚須築線については、乗合バス及び乗合タクシーとして沿線住民と通学生の輸送を担っているが、沿線人口の減少や高齢化の進行もあり、高齢者の乗車利便性の向上が課題となっている。。

【事業内容】

- 路線型でのデマンド運行をしている瀬棚須築線の区域デマンド化を図る。

【実施主体】 せたな町、交通事業者

【関連する組織等】 国・道（補助）

▼瀬棚須築線の利用状況（平成29年4月～10月）

■バス便

	発地	着地	発時間	利用者数 (4～10月)	利用者数 (月平均)	備考
平日	須築	やすらぎ館	7:15	278	39.7	通学便
	やすらぎ館	須築	11:30	476	68.0	
	須築	やすらぎ館	12:10	247	35.3	
	やすらぎ館	須築	14:58	216	30.9	
	須築	やすらぎ館	15:30	60	8.6	
	やすらぎ館	須築	16:32	218	31.1	通学便
	須築	やすらぎ館	17:10	19	2.7	
	やすらぎ館	須築	18:08	33	4.7	
	小計			1,547	221.0	
土曜日	やすらぎ館	須築	7:45	3	0.4	
	須築	やすらぎ館	8:20	30	4.3	
	やすらぎ館	須築	13:10	22	3.1	
	須築	やすらぎ館	13:50	12	1.7	
	小計			67	9.6	
合計				1,614	230.6	

■タクシー便

	発地	着地	発時間	利用者数 (4～10月)	利用者数 (月平均)	備考
平日	須築	やすらぎ館	5:40	14	2.0	
	やすらぎ館	須築	17:35	16	2.3	中・高生
	やすらぎ館	須築	19:08	10	1.4	中・高生
	小計			40	5.7	
土曜日	やすらぎ館	須築	16:32	3	0.4	
	須築	やすらぎ館	17:10	0	0.0	
	小計			3	0.4	
日・祝日	やすらぎ館	須築	7:45	1	0.1	
	須築	やすらぎ館	8:20	12	1.7	
	やすらぎ館	須築	14:58	16	2.3	
	須築	やすらぎ館	15:30	5	0.7	
	小計			34	4.9	
合計				37	5.3	

5. 目標達成のための施策・事業

【方向性4】 生活交通と連携した町内観光スポットを周遊する路線の検討

【 施策・事業 4-1 】 宿泊施設との連携によるバス・ハイヤーの利用促進

【背景】

- 北海道新幹線の開業や外国人観光客の増加など、今後も町内を取り巻く観光需要は増加していくことが見込まれる。
- 現在は、公共交通を利用して宿泊施設にアクセスする観光客は非常に少ない現状にある。

【事業内容】

- 宿泊施設（温泉ホテルきたひやまなど）を起点として町内を巡るバスやハイヤープラン（ハイヤーで巡る太田神社参詣プラン、路線バスで巡る岩シュー体験プランなど）を展開する。
- さらに、公共交通機関を利用してアクセスする方向けの宿泊プランなど道外客や外国人の取り込みに向けた利用促進策などについても検討していく。

【実施主体】 交通事業者、宿泊事業者
 【関連する組織等】 せたな町

▼路線バスを活用したパック商品の事例（十勝バス）

バス乗車券+入場券+入館料&クーポン付
日帰り路線バスパック

日帰りバスパックとは？
 十勝のオススメ・人気の観光地を帯広市の中心（帯広駅バスターミナル）からお手軽に日帰りで楽しんでもいただける路線バスでめぐれるパックで、往復のバス乗車券と観光地の入場券や入館券、割引クーポンが付いたとってもお得に十勝を堪能出来るバスパックです。

日帰り路線バスパック利用の手引き

- バスパック券の購入について**
 各窓口にて「日帰り路線バスパック」の購入をしたいとお伝え下さい。次に本パンフレットに記載のあるバスパック名、利用人数をお伝え頂き、所定の料金をお支払ください。
（ご利用日を指定して頂ければ、前売り販売も可能です）
- ご購入・ご利用前の確認事項**
 - バスパックはご利用当日のみ有効です。
（ご利用日を指定して頂ければ、前売り販売も可能です）
 - ガイド（即席する案内係）はつきません。
 必要な切符類をお渡ししますのでお客様の好みの時間に路線バスにご乗車のうえご利用下さい。
 - 運行状況は十勝バスにてご確認ください。
 交通渋滞・悪天候等でバスが遅れる場合がございます。
 - 施設開館時間・休館日等はお客様にてご確認ください。
 - 乗降後の払い戻しは出来ません。
 施設によってはこのバス券以上に割引が設定される場合があります。特別割引等はお客自身でご確認の上ご購入下さい。
 - 日帰りバスの旅を便利にしてくれるスマホアプリ「もくいく」【バスロケ】をご利用下さい。
 アプリの詳細はホームページをご覧ください。

<販売場所>

- ① 帯広駅バスターミナル **窓口パック販売**
 帯広市西2条南127番4号2号
 TEL.0155-23-5171
 営業時間/5:40～21:00
- ② とうち帯広空港案内所 **窓口パック販売のみ販売**
 帯広市東町南引輪中8-11空港ビル内
 TEL.0155-64-4078
 営業時間/8:30～19:30

学習・レジャー・温泉が楽しめる!
帯広駅発着 発売期間 **通年(毎週火曜日、年末年始は除く)**
忠類ナウマン象記念館&温泉 大人/2,400円・小人/1,200円

忠類ナウマン象記念館 営業時間 9:00～17:00
<http://www.town.makubetsu.lg.jp/makubetsucho/shougaigakushuka/naumanzoukinenkan.jp>
 ナウマン温泉ホテルアルコ236 日帰り温泉営業時間 11:00～23:00 <http://www.arco236.co.jp/>

得 バック内容
 ① 帯広駅バスターミナル→ナウマン象記念館前/往復バス乗車券
 ② 忠類ナウマン象記念館入館券
 ③ ナウマン温泉入浴券(タオル類の販売あり)
 ④ 道の駅-レストランちやうひ 10%割引券
※どちらか1所のみ

工藤ガイド、私がオススメ!!
 貴重なナウマン象の化石や骨格模型など、見所いっぱい!大人も楽しめます!その後は温泉入浴と地元特産品に抱れる日帰り旅行、1日中ぐっすり過ごせます。

おすすめプラン
 帯広駅バスターミナル(9:25発)→ナウマン象記念館前(11:20着)→忠類ナウマン象記念館見学→道の駅忠類(買物・昼食)→ナウマン温泉入浴→ナウマン象記念館前(14:21発)→帯広駅バスターミナル(16:00着)
※予約枠に追加されることとなります。

時刻表

行先	時分	時分	時分	時分
帯広駅バスターミナル	9:25	11:20	13:01	16:01
忠類	7:15	12:20	14:21	18:06
帯広駅バスターミナル	9:35	13:01	15:21	19:26

(所要時間 約1時間40分)

地元民のお墨付き!癒しの隠れ湯
帯広駅発着 発売期間 **通年**
丸美ヶ丘温泉 大人/700円・小人/250円

丸美ヶ丘温泉ホテル 日帰り温泉営業時間 10:00～23:00

得 バック内容
 ① 帯広駅バスターミナル→宝来中央通り
 ② 往復バス乗車券
 ③ 丸美ヶ丘温泉入浴券
※タオル類・アメニティ販売がございます。(別途料金)

芳賀ドライバー、私がオススメ!!
 小高い丘の上の高に囲まれた自然豊かな温泉。2種の源泉に恵まれたモダンな温泉施設。木々に囲まれた浴室に立ち込める湯の香り、心身ともにゆったりとした安らぎに包まれてみませんか?

おすすめプラン
 帯広駅バスターミナル(11:20発)→宝来中央通り(11:34着)→徒歩13分→丸美ヶ丘温泉(入浴)→徒歩13分→宝来中央通り(14:34発)→帯広駅バスターミナル(14:50着)

時刻表

行先	時分	時分	時分	時分
帯広駅バスターミナル	9:05	14:26	15:25	18:41
丸美ヶ丘温泉	11:20	15:51	16:24	17:59
帯広駅バスターミナル	12:26	18:11	18:54	19:19

(所要時間 約15分)

5. 目標達成のための施策・事業

【方向性5】 主要路線である幹線系統の維持及び利用促進

【 施策・事業 5-1 】 広域で運行する公共交通路線の維持確保に向けた協議の場づくり

【背景】

- ・広域で運行する路線バスは、快速せたな号を含めて3路線あるが、瀬棚線及び檜山海岸線については年々利用者が減少傾向にある。
- ・特に檜山海岸線については、せたな町内の利用が少なくなっており、今後の需要動向によっては路線の見直しが必要になる。

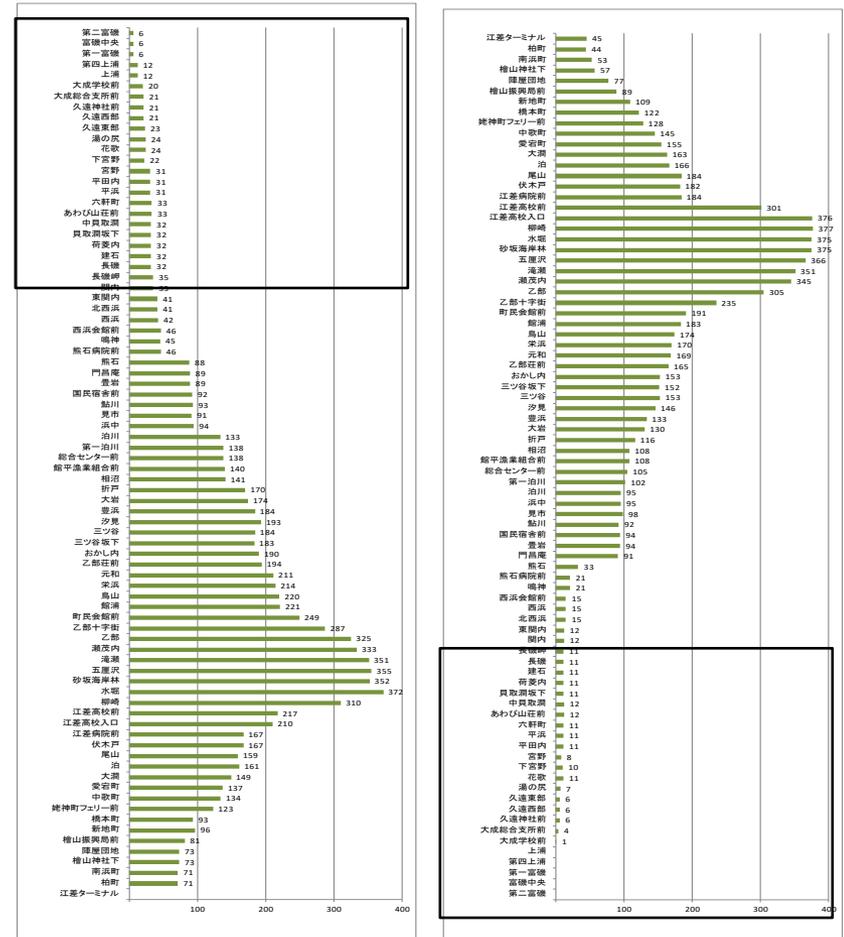
【事業内容】

- ・広域で運行する路線バス（地域間幹線系統路線）の維持・確保に向け、関係自治体と広域的な協議を進めていく。
- ・瀬棚線及び快速せたな号については新幹線開業後の利用拡大を見据えることも含めて広域的な協議を進めていく。
- ・檜山海岸線については、関係自治体や交通事業者との協議を行いながら、せたな町内区間のフィーダー路線化を検討していくとともに、広域的なネットワークの確保を図っていく。

【実施主体】 せたな町、関係自治体

【関連する組織等】 交通事業者

▼檜山海岸線の利用実態



5. 目標達成のための施策・事業

(2) 路線毎の方針

種別	路線	現状・課題等	方針
複数の自治体をまたがって運行する路線	瀬棚線	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹となる路線であり、通学利用が多い ○高校生の減少への対応した地域住民の利用促進が課題 	○町民利用の促進策の検討を通じた路線の確保
	快速せたな号	<ul style="list-style-type: none"> ○八雲・函館への通院客が主 ○今金町からの利用も多い 	○町民利用の促進策の検討を通じた路線の確保
	檜山海岸線	<ul style="list-style-type: none"> ○せたな町内は非常に利用者が少ない ○一部江差・函館方面等への通院利用客が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ○せたな町内区間におけるフィーダー路線化の検討 ○沿線自治体の連携による広域的なネットワークの確保
	たいせい号	<ul style="list-style-type: none"> ○デマンド運行化しているが、利用者が少なく厳しい需要条件 ○通院の足として欠かせない路線 	○大成区の住民の通院等を支える輸送手段の確保
せたな町内のみで運行する路線	瀬棚須築線	<ul style="list-style-type: none"> ○需要条件が厳しくデマンド化 ○小型車輛の導入 	○面的なサービスの向上、幹線との接続性確保によるフィーダー路線化の検討
	太櫓線	<ul style="list-style-type: none"> ○非常に利用者が少ない ○並行して運行するバスあり 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度にデマンド化の実証運行 ○面的なサービスの向上や幹線との接続性確保によるフィーダー路線化の検討
	久遠線	<ul style="list-style-type: none"> ○大成区及び若松地区からの通学利用が主 ○通学時間帯以外は利用者が少ない 	○町民利用の促進を図るとともに、輸送効率向上に向けたデマンド化等を検討

5. 目標達成のための施策・事業

(3) 実施スケジュール (案)

方向性	施策・事業	H30	H31	H32	H33	H34
町民が安心して暮らし続けられる持続可能な生活交通の確保	バス体験乗車会の実施	検討	実施			
	温浴施設の利用促進と一体となった地域住民の利用促進	検討	実施			
利用実態に即した効率的な交通手段の導入	複数の運行目的の統合によるデマンドバスの運行(太槽線、久遠線)検討	実証運行	運行			
高齢化による移動困難者に配慮した移動支援策の検討	長距離通院に対応した輸送手段の確保	検討		実施		
	丹羽エリア・若松エリアなど農村エリアを中心としたデマンド型乗合タクシーの導入	協議・検討	実証運行	運行		
	瀬棚須築線の区域デマンド化	検討	運行			
生活交通と連携した町内観光スポットを周遊する路線の検討	宿泊施設との連携によるバス・タクシーの利用促進	検討	実施			
主要幹線である幹線系統の維持及び利用促進	広域で運行する公共交通路線の維持確保に向けた協議の場づくり	実施				

6. 計画の達成状況の評価

- ・事業の実施にあたっては、社会環境や町民のニーズの変化にあわせて事業内容を適宜改善することが必要である。
- ・このため、定期的に計画の実施状況や効果を検証し、必要に応じて見直しを行うPDCAサイクルを機能させながら推進していく。
- ・効果検証にあたっては、交通事業者や住民代表のほか関係機関で組織する「せたな町地域公共交通活性化協議会」の参画を得て行う。
- ・効果検証の時期としては、計画の中間時点（2～3年経過後）にもフォローアップを行い、計画が着実に実行されているかどうかを検証しながら推進する。

